

【普通作物】の【少雨・干ばつ】対策について <3月>

農業経営支援課

【早期水稻】（育苗期～移植期）

（１）予想される被害状況

- ① 田植作業が遅れ、苗の徒長や老化、病害が発生する。
- ② 移植後の活着や分けつの遅れが生じる。
- ③ 移植後に低温に遭遇した際、水深が浅いと寒害を受けやすくなる。

（２）事前対策

１）育苗管理

- ① 育苗日数が25日を過ぎると肥料切れしてくるので、1箱当たり0.5g程度の窒素を追肥し、葉焼けしないようすぐに軽く散水する。
- ② 苗箱への灌水は苗が徒長しないよう少なめにする。
- ③ いもち病や苗立枯れ病が発生しやすくなるので防除を行う。
- ④ 寒冷紗で遮光したり、苗箱の間隔を広げるなどして風通しを良くする。
- ⑤ 苗が徒長したら、本葉第2葉の中央部程度で剪葉する。
- ⑥ 移植後に低温で寒害発生の恐れがある場合は、田植えを見合わせる。

２）本田準備

- ① 水系毎に配水計画を定め、効率的に代掻きや田植作業を進める。
- ② ほ場内に通水用の溝やポリチューブ、波板等を設置し効率的に配水する。
- ③ ほ場からの漏水が軽減するよう、代掻きや畦ぬりは丁寧に行う。
- ④ 海に近い河川や地下水から給水する場合は、海水の混入に注意する。

３）本田管理

- ① 移植が大幅に遅れ穂数不足が懸念される場合は、苗箱数を勘案し1株の植付け本数を多くしたり、栽植密度（株間を短く）をやや多くして移植する。
- ② 移植後は計画排水により、減水に応じて数日間隔での給水に努める。
- ③ 除草剤は浅水で散布すると、特にジャンボ剤やフロアブル剤では拡散不十分で薬害を起こしたするので、薬害の少ない初期除草剤を選定したり、薬剤の適用範囲内で、水深が十分確保されたときに散布する。

(3) 事後対策

- ① 葉いもちが発生したら直ちに防除する。
- ② 残草が多い場合は、中後期除草剤で除草する。
- ③ 苗の老化や本田水不足で移植が不可能と判断された場合は、再育苗や作期の晩化、作付品目の変更等の検討を早めに行う。

【ムギ】(幼穂形成期～出穂期)

(1) 予想される被害状況

- ① 生育が抑制され、穂の発育が不良となる。

(2) 事前対策

- ① 生育に応じて、追肥(穂肥)を行う。

(3) 事後対策

- ① 雑草が繁茂すると、水分や養分を収奪するので除草を行う。
但し麦の根を傷めない程度とする。